

阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I



【伯光苑土+サンジヨゼド・リオブレット土+マナウス砂/ブラジルボク釉】
教主さまお作 灰釉茶盃「伯」

時なしに皇大神と念じつつ
精一杯をなさむとぞ思ふ

【尊師 出口日出磨】

一つ心に展示ケース作り

大本総代 石井 信孝

東日本大震災から12年を迎えた3月11日、仙台市荒浜海岸で神言を奏上する中、聖地からのご神水を散布し、犠牲者のみたまに慰霊の祈りをささげました。

平成26年7月、宮城分苑総代会は東日本大震災から5年後の春を目標に、仙台の地で被災復興祈願も込めて、「出口王仁三郎とその一門の作品展」を開催したいとの気運が高まりました。

作品展会場を宮城県美術館に宮城県の後援を頂き、平成28年4月6日から10日までの仮契約（本契約は2カ月前）を行い、計画を進める中で大事な展示台の準備ができていませんでした。

宮城県美術館に照明器具、吊金物はありませんでしたが、貸出の展示台がありませんでした。展示ケースのレンタル店は、大阪、京都にありましたが、ハイケースは少なく長尺覗き込みケースは高価で数が少なく、移動費用は驚きの価格でした。

開催を5カ月前に準備委員会は悩みましたが、展示ケースを手配できなければ、分苑のみんなで作ろう。出口日出磨尊師さまのお言葉「なさでなりなせどもならぬ何事もなるもならぬも神のみ心」にお力をいただきましょう」との発言で決まりました。

「ギャラリー おほもと」の展示台を見本に、ハイケース10台、長尺覗き込みケース5台、結界30以上の製作に、宮城分苑信徒の電気技能職、工務店職、大工職、鉄工職、工芸職などそれぞれの専門分野で役割分担し、一つ心に一丸となってスタートしました。試行錯誤を繰り返し、製作を進めて仕上がったのは開催の5日前でした。

教主さまが震災後に復興を祈られて、宮城分苑内の宮城野萩の釉薬で作陶された「希望の光」や「みちのくの春（みろくの春）」6盃を始め、歴代教主さまのお作品65点が展示されました。拝観者も大変感激され、出口日出磨尊師さまの「奇跡の一本松」のお軸は大きな関心が寄せられました。

この時の体験を胸に、東北の地から良い型を出させていただき、みちのくの春」に向かって前に進んでいきたいと思えます。



5月の月次祭を執行

5月の東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は5月14日午前10時30分から、齋主・加藤道明祭務課長のもと執行され、200人が参拝した。写真左。祭員は茨城主会、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は秋山智千葉主会長が担当。東光庵では、添釜がかけられ、埼玉主会が担当した。

祭典後、橋本伸作東京宣教センター長があいさつ。続いて1984年のロサンゼルス五輪の体操男子で個人総合とつり輪の金メダルを獲得した具志堅幸司氏（東京主会）が、このたび国際体操の殿堂入りを果たし、5月19・20日のアメリカでの式典に先立ち、あいさつを行った。具志堅氏は「出口日出麿先生のおかげで受賞できた」と喜びを語った。その後、お祝いの花束が贈呈された。写真右下。ついで、エスペラントによる「基本宣言歌」の合唱を米田通子EPA講師の指導で行った。



また、1階ロビーでは、直心会バザーが、直会時には、青年部によるコーヒーパーティーが、また明年、南米宣教100周年に開催される第50回南米



本部夏期学級へ日本の青年を送り出すための募金活動が行われた。また、このたび教主さまのお許しをいただき、東光苑の神苑に、本宮山のアカマツをはじめ、コバノミツバツツジ、シロヤマブキなど、聖地の草花が移植され、参拝者に披露された。写真左。



また、このたび教主さまのお許しをいただき、東光苑の神苑に、本宮山のアカマツをはじめ、コバノミツバツツジ、シロヤマブキなど、聖地の草花が移植され、参拝者に披露された。写真左。

〈ご案内〉

み手代下付 100周年記念 東光苑宣伝使・信徒の集い

7月9日（日）午後1時30分
講師：鈴木林太郎（愛善宣教部長）

本年は、聖師さまが大正12年に、瑞の御魂さまのみ救いをお取り次ぎする「み手代」を下付されてから100周年を迎えます。

これを記念して、7月の東光苑月次祭にあわせ、「み手代下付100周年記念 東光苑宣伝使・信徒の集い」を開催します。

亀岡本部から、鈴木林太郎愛善宣教部長を講師に迎え、記念講話を拝聴するほか、体験談発表、また「宣伝使のご用」をテーマにした企画展などを予定しています。

宣伝使はもちろん、信徒の皆さまのご参加をお待ちしています。



東光苑オンライン講座

7月25日（火）19:00～

大本と機織り ～大本で引き継がれる糸の道～

講師：阿比留健次（大本綾部祭祀センター総務管理部長）



出口なお大本開祖の系引きから始まった「糸の道」。出口すみこ大本二代教主が確立した鶴山織と鶴山草染。その後、歴代の大本教主へと引き継がれ、現在から未来につながる大本の機織りと、その意義についてお話しいたします。

大本東京本部ホームページをご覧ください！

● 離任あいさつ

前東京宣教センター祭務課 増田 勸

私事で恐縮ですが、一身上の都合により、4月30日をもちまして、本部ご奉仕を辞退させていただき運びとなりました。

本部にご奉仕を許されて6年間、信徒の皆さまには、さまざまな面でお話しさせていただき機会が多く、ご指導ご鞭撻を頂き、心より感謝申し上げます。

最後になります、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

今まで、本当にありがとうございました。



7月 東光苑祭典・行事予定

9日（日）午前10時30分

東光苑月次祭

み手代下付100周年記念

「東光苑宣伝使・信徒の集い」

25日（火）午後7時

東光苑オンライン講座（配信）

講座 大本と機織り

～大本で引き継がれる糸の道～

講師 阿比留健次

（大本綾部祭祀センター総務管理部長）